

旧赤星鉄馬邸

近代モダニズム建築文化を未来へつなごう

近代モダニズム建築の特徴を色濃く残す「旧赤星鉄馬邸」。

この貴重な建物と緑豊かな庭を次世代へつなげるため、

市では利活用の方法を市民の皆さんと一緒に考え、取り組んでいます。

★ 旧赤星鉄馬邸とは？ ★

旧赤星鉄馬邸は、五日市街道を挟んだ成蹊大学の向かい側にあります。長く続く壁に囲まれた敷地の面積は約4500㎡、敷地内にある邸宅は、実業家・赤星鉄馬が日本モダニズム建築の先駆者、アントニン・レーモンドに依頼し、昭和9（1934）年に建てられました。鉄筋

コンクリート（RC）造住宅で、建築様式は、曲線を取り入れたモダニズム建築です。また、その庭には樹木が林立する緑豊かな環境が残っています。市ではこの緑豊かな環境を残せないかと、平成31（2019）年より前所有者のカトリック・ナミュール・ノートルダム修道女会と土地の一部取得交渉を始めました。令和3（2021）年に前所有者より「周辺の住環境を守るための保全の思いが強くなり、建物と土地のすべてを市に取得してほしい」との意向を受け、建物は国の登録有形文化財の登録を目指すため、市が寄贈を受けることになりました。また、庭は公園として整備していく予定です。

正面玄関から見た外観▶



Residence of Akaboshi

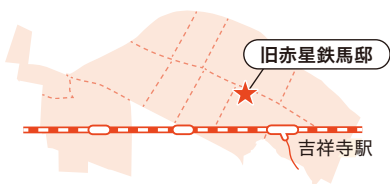


▲庭から見た旧赤星鉄馬邸

旧赤星鉄馬邸

武蔵野市吉祥寺本町 4-26-21

曲線美が印象的な正面外観のほか、邸内のらせん階段や各部屋にある作り付けの家具など、一部には建築当時のままの貴重な構造・内装が残されており、当時の邸宅の面影を垣間見ることができます。



カトリック・

ナミュール・ノートルダム修道女会

1800年代初めにベルギーで創設。その後、修道女会は世界に拡大し、日本では大正13（1924）年、岡山県に修道女会を設立。米国で広まった原爆投下の贖罪の募金を資金に赤星鉄馬邸を購入し、シスターの養成施設として使用されてきました。近年はシスターとなる希望者が減少し、平成23（2011）年に最後の一人が巣立ちました。

Former R Tetsuma



★ 赤星鉄馬とアントニン・レーモンドについて ★

赤星鉄馬

明治15 (1882) 年～
昭和26 (1951) 年



出典：『赤星鉄馬 消えた富豪』
与那原惠著 / 中央公論新社

明治期の生まれで大正、昭和期に活躍した実業家です。日本初の学術財団「啓明会」を立ち上げて、幅広い分野の研究者たちの支援をしました。大正12 (1923) 年の関東大震災により、麻布区鳥居坂 (現在の港区六本木) の自邸が半壊したことから、吉祥寺に転居してきました。武蔵野市百年史では、昭和3 (1928) 年に武蔵野村が町となった際、新庁舎建設時に多額の寄付をしたことがうかがえる記録が残っています。

アントニン・レーモンド

明治21 (1888) 年～
昭和51 (1976) 年



レーモンド夫妻と犬

オーストリア＝ハンガリー帝国 (現チェコ共和国) 出身。大正8 (1919) 年、帝国ホテルの建設のため、近代建築の三代巨匠のひとり、フランク・ロイド・ライトの助手として来日。自然と風土に溶け込む実用的で美しい建築デザインで知られるモダニズム建築の先駆者です。第二次世界大戦中を除いて、彼が85歳になるまでの約44年間、日本にとどまり日本の近代モダニズム建築に多大な影響を与えました。レーモンドの設計事務所からは、前川國男や吉村順三など、日本を代表する建築家が育ちました。



旧赤星鉄馬邸ヒストリー



- 昭和9年 (1934年) ● 赤星鉄馬の邸宅として完成
- 昭和19年 (1944年) ● 日本陸軍によって接収される
- 昭和20年代 (1945年～) ● GHQによって接収される
- 昭和31年 (1956年) ● ナミュール・ノートルダム修道女会が購入
- 令和3年 (2021年) ● ナミュール・ノートルダム修道女会が市へ寄贈
- 令和4年 (2022年) ● 国登録有形文化財に登録



▲ 玄関ホールとらせん階段

◀ 邸宅内に造られた大きな蔵

旧赤星鉄馬邸

ガイドツアーを体験！

今年10月、市では旧赤星鉄馬邸の一般公開を開催し、ガイドツアーを行いました。予定人数を大きく上回る応募数から市民の方々の関心の高さがうかがえる、旧赤星鉄馬邸を徹底解説！ガイドツアーで紹介した見どころを巡ります。

*建物の耐震診断の結果を踏まえて、常時公開は行っていませんのでご注意ください。

私が
ご案内
します



総合政策部
資産活用課
けんもつ けい
監物 契さん



こんなすてきな建物
があったなんて



★ 玄関・ホール ★

玄関ドアにはガラスドアも設置されており、玄関全体が採光を取り込んだ明るい空間に。玄関ホールから続くらせん階段は当時では珍しい構造でした。階段途中にある細長い採光窓もデザイン性に優れています。この階段スペースは外観の曲線部分にあたり、レーモンド建築の特徴が表れています。



★ 居間・食堂 ★

1階にある居間・食堂の広さは約36畳。庭に面した南側は一面すべてが窓になっており、日当たりが良く開放感あふれる空間が広がります。アメリカから取り寄せた赤セコイア（木材）を使った作り付けの家具は、レーモンドの妻で、家具デザイナーのノエミ・レーモンドによってデザインされたものです。



庭と建物の両方が
残っているのがすごい

この貴重な
文化財は将来に
残したいですね

緑が多くて癒されるね



樹木が多くて貴重な緑の空間だね



立派な藤棚！

春に見てみたいいな

広い庭には芝生が広がり、その奥には長い年月を経て大きく育った桜やケヤキなどの樹木が林立しています。また、居間・食堂の窓際には藤棚もあり、これらの中の32本は市が指定した保存樹木となっています。桜、藤、新緑、紅葉と四季折々に美しい景観が楽しめます。

★ 庭園 ★



書斎の隣、小上がりの和室の下は引き出しが



鉄馬のプライベート空間だった2階にある書斎。このスペースの一番の見どころは飾り棚の奥に設えられた明かり取りの丸窓。小さな丸窓が規則正しく並び、斬新なデザインは、レーモンド建築の表現のひとつであり、とても印象的です。書斎には当時の暖房器具も残っており、現在も使用できます。

★ 書斎 ★

玄関のひさしと同じデザイン！



レーモンド建築の素晴らしさがここにも

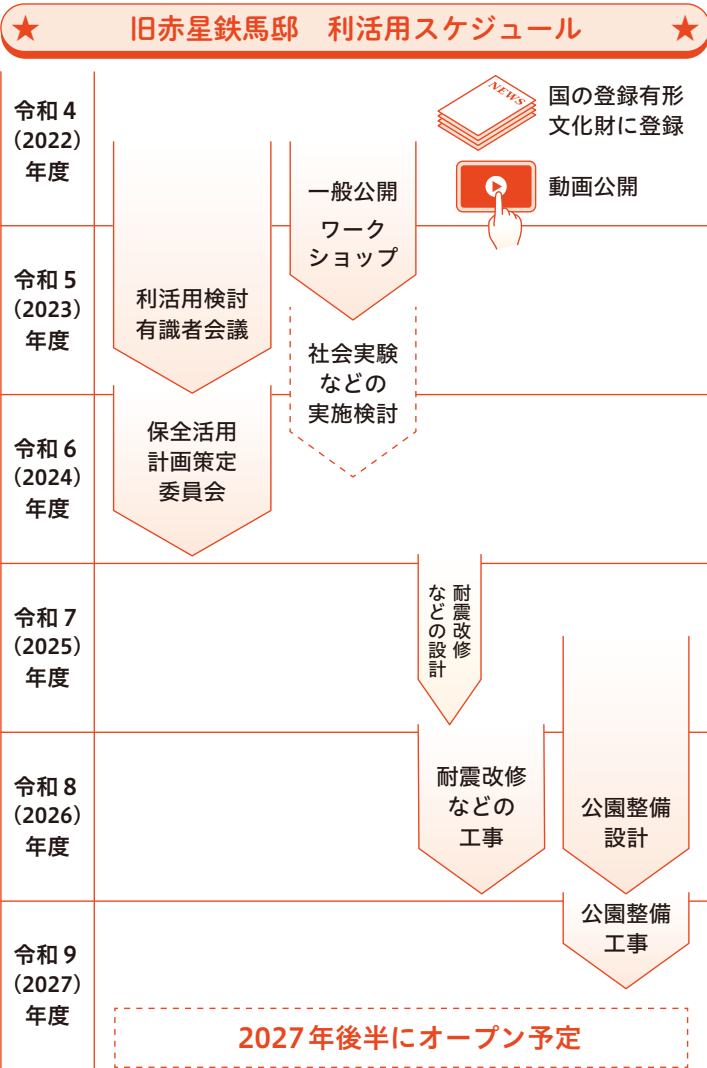
感性が刺激されるデザインがいっぱい！



1階にある夫人室には、円弧状に開く扇型の引き出しや着物を収納するタンスなど、ノエミ・レーモンドが鉄馬の妻を思い設計・デザインした作り付けの家具が現存しています。また、南向きの窓も大きく造られており、室内は明るく庭も見渡せます。

★ 夫人室 ★





旧赤星鉄馬邸の保存はもとより、緑豊かな庭との一体的な利活用により、この環境を将来につないでいくための検討を開始しました。

まずは寄贈を受けた後の令和3年度には、市役所内のワーキングチームにより、関係法令の調査、整理、検討を行い、報告書としてまとめました。併せて建物の

耐震診断も行いました。また、今年10月には一般公開やアンケートを実施したほか、「利活用検討有識者会議」を設置し、より具体的な検討を行っています。

今後は、国の補助金も活用しながら、旧赤星鉄馬邸と公園の整備を行ったうえで、令和9年度後半のオープンを目指して、検討を進めていきます。

※現時点における想定です。今後の検討状況や補助金申請状況により変更になる可能性があります。

旧赤星鉄馬邸 利活用に向け検討開始



総合政策部 資産活用課 けんもつ けい 監物 契さん

今年10月に一般公開を行ったところ、遠方も含め、大変多くの方からお申し込みがあるなど、旧赤星鉄馬邸への関心の高さを実感しました。今後も、ワークショップの開催、庭の活用に向けた社会実験など、さまざまな取り組みを進めていく予定ですので、ぜひご注目ください。



関連情報はホームページでご案内しています

旧赤星鉄馬邸 国の登録有形文化財に！



令和4年2月に市が旧赤星鉄馬邸の登録有形文化財の申請を行い、同年7月22日に国の文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、10月31日に登録有形文化財（建造物）に登録されました。